

## ポンド、物価・雇用データに注目

- ◆ポンド、10月の英物価・雇用データに注目
- ◆BOE 総裁が利上げ経路をめぐる市場との対話に苦戦。ポンドは当面神経質な動きか
- ◆加 10月 CPI に注目も、原油高の一服で加ドル高に調整が進む可能性

### 予想レンジ

ポンド円 150.00-155.00 円

加ドル円 89.00-93.00 円

### 11月15日週の展望

米欧英の3大中銀が最近の会合で利上げに対する慎重姿勢を崩さず、市場の利上げ期待に冷や水を浴びせている。投資家の多くがイングランド銀行（BOE）の11月会合での利上げを予想していたが、結局は金融政策委員会（MPC）メンバー9人のうち7人が金利の据え置きに賛成した。BOEの11月会合の結果を受けて、市場では12月利上げ期待がほぼ5割に後退している。ただ、BOEは景気が想定通りに推移すれば「向こう数カ月で利上げが必要になる」と表明しており、近く引き締めへ転じる可能性を排除していない。

また、11日に発表された英7-9月期GDPは前期比+1.3%と、個人消費の回復にも後押しされ2期連続のプラス成長となるも、ロックダウン（都市封鎖）後の景気の勢いが鈍化していることが示され、BOEの予測（+1.5%）に近い成長となった。BOEは9月末に政府の雇用保護制度が終了したことを受けた労働市場の状況を引き続き注視すると表明しており、10月の雇用データで失業率の低下や賃金の上昇が続くかどうかを確認したいところだ。10月消費者物価指数（CPI）が高止まりしても、BOEが物価上昇のピークは来年4月と見込んでいることもあり、大きな反応は期待できないが、早期利上げの思惑が高まる可能性はある。ベイリーBOE総裁は「金利は市場が示唆するほど前のめりに上昇していかない」と投資家を説得しようとしている一方で、「物価上昇観測が賃金上昇につながっていると判断されれば、利上げで対応する」とインフレリスク高進への警戒感も強めている。利上げ経路をめぐる、ベイリーBOE総裁は市場との対話に苦戦しており、ポンドは神経質な動きが続くそう。今後は、利上げ時期をめぐる、インフレ見通しが焦点となるが、供給制約が今後数カ月で和らぎ、それに伴うインフレ圧力も弱まるとのMPCメンバーの主な主張に正当性が高まるかどうかだろう。英国はEUと合意した北アイルランドの通関検査を規定した「議定書」の一部効力に関する停止措置を行使するとの見方も強まっている。英・EUの関係悪化が供給状況の改善を遅らせる可能性も出てきている。

加ドルについては、カナダ中銀（BOC）のタカ派姿勢を好感した加ドル買いは一巡し、原油高も一服したこともあり、足もとでは加ドル高に調整が進む可能性がある。ただ、供給不足への警戒感で原油の先高感が根強いことや、BOCの早期利上げ期待は引き続き加ドルの下支えとなる。来週は加国内で10月CPIの発表が予定されている。9月は前年比+4.4%と約18年ぶりの大幅な伸びとなった。10月も高い水準が見込まれるが、BOCは「インフレ高進は一過性」との見方を維持するだろう。ただ、結果次第では市場の来年1月利上げ期待が一段と高まる可能性もある。

### 11月8日週の回顧

4日のBOE政策会合を受けて急落したポンドは戻りが鈍い。ポンド円は153円後半を戻り高値水準に152円半ばに押し戻され、ポンドドルは昨年12月以来の1.34ドル割れとなった。原油高が一服する中、強い米CPIを背景にドル高が進み、ドル/加ドルは1.26加ドル近辺まで加ドル高に調整が入り、加ドル円は91円後半を頭に90円半ばに押し戻された。（了）